

「三鷹電車区事件」の真実!

「浦和電車区事件」に匹敵する、きわめて悪質な人権侵害、安全破壊が行われた「三鷹電車区事件」については、マンガ「第10部」(69ページ)で紹介しましたが、事件の真相についてあらためて詳しく解説したいと思います。

1. JR東労組役員らによる 激しいいじめの連続

JR東労組の組合員であった三鷹電車区運転士の佐藤久雄氏は、1999年9月に旧知の仲間と芋煮会に参加しましたが、この中に、当時のJR連合構成組織であるJRグリーンユニオンの組合員も加わっていました。これをJR東労組が突き止め、佐藤氏をはじめ、芋煮会に参加していたJR東労組組合員4名を「組織破壊者」と断定し、各職場で糾弾行動を開始しました。

佐藤氏の出勤日には、ほぼ毎日、JR東労組三鷹電車区分会の役員らから徹底した糾弾、恫喝を受けました。浦和電車区事件と同様に、勤務前や非番の勤務終了後、組合事務所と化していたミーティングル



JR連合は「三鷹電車区事件」の記録映像や解説などをDVDにまとめた。



ームに呼び出され、多数の役員らに取り囲まれて、毎回1時間以上、罵詈雑言を浴びせ掛けられ、吊し上げのような追及を受けました。佐藤氏は10月15日に無理やり脱退届を書かされました。佐藤氏は身の危険を感じ、JR連合(JRグリーンユニオン、現・JR東日本ユニオン)に加入しましたが、集団的な恫喝やいじめはますますエスカレートしました。

佐藤氏がJR東労組から受けた悪質な攻撃は、枚挙に暇がありません。佐藤氏が出勤する度に、30名から、多いときは50名ほどが電車区通路に人垣をつくって待ち受け、更衣室から点呼室、ホームに移動するまでに付きまとい、「裏切り者!なめるんじゃない!」「バカヤロ!」「お前さっさと辞めろ!」「さっさと三鷹から出ていけ!」「荷物まとめて帰れ!」「お前と一緒にいるのが嫌だ!」「自転車乗るな!」



この日から
止むことのない
攻撃が始まった

おい
聞いてんのかよ
オッサン!

裏切りモン
なんだから
許めちまえよ

ポケット!

「宿舍返せ!」「ウォシユレット使うな!」「長椅子使うな!」「ポーナス返せ!」などと佐藤氏に罵詈雑言を浴びせ掛けました。自転車や長椅子などの備品は、JR東労組が勝ち取ったものだから使うな、という意味のようです。ロッカー室では、ネクタイを掴んで締め上げられたり、パンツ姿をビデオ撮影するといった、人権を侵害するようないじめも受けました。

JRグリーンユニオンは「支援隊」を結成し、勤務の度に懸命に佐藤氏をガードしました。JR東労組はこれに対抗して大勢で支援隊を取り囲み、罵詈雑言を浴びせるなど悪辣な攻撃を仕掛けてきました。また、会社は、佐藤氏への糾弾、恫喝が行われている三鷹電車区内への支援隊の立ち入りを禁じながら、その一方で、JR東労組の横暴は黙認するという状況でした。全国の仲間の支援を受けて、佐藤氏は厳しい環境の中でも、彼らのいじめに耐えて、安全運転に努めてきたのです。

2. 懲戒解雇や厳しい刑罰に値する悪質な犯行

「三鷹電車区事件」では、運転士である佐藤氏に対し、事故を誘発するような悪質な安全破壊攻撃が繰り返されました。運転士は乗務にあたって助役から「乗務点呼」を受け、時刻変更、着発線変更、徐行区間など、運転上の重要な伝達事項を確認し合うのですが、点呼を執行する佐藤氏を、毎回、JR東労組組合員が10名以上で取り囲み、上

述のような罵声を浴びせて妨害するのです。佐藤氏は、大混乱の中で必死に伝達事項を聞き取り、動揺を抑え、安全運転に努めていたのです。また、佐藤氏の運転中、対向列車からパッシングをして幻惑させたり、電車区構内の信号機前に4、5名で立ち塞がって、佐藤氏の信号確認を妨害するなど、信じられない行為が発生しました。「往來危険罪」に相当する悪質な行為を、仲間の運転士が行っていたのです。懲戒解雇は当然、刑法上も厳罰を与えなければならぬ犯行であるといえます。このような状態で、佐藤氏は、首都圏の大動脈である中央線において、多数の利用者が乗車する電車を運転していました。人命を預かる運転士が、仲間の運転を妨害したり、心身ともに極限状態に追い込んで、事故を誘発するような行為を繰り返していたこと

<p>～確信犯に同様の余地はない～</p> <h1>炸裂</h1> <p>～SAKURATSU～ 小林誠也</p>	<p>～今号の内幕～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・闘争体制実現中! ・佐藤久雄の実態! ・だから説教が止まない! ・ブラックユニオン許さん! ・JRは許さん! ・読書塔! 	<p>1987年 9月27日 No.44号 毎月定価 1冊発行 1000円 発行所 JR東労組 三鷹電車区分会青年部 委員長 小林誠也 編集長 渡辺 誠也</p>
<h2>この確信犯めっ!!!</h2>		
<p>皆さんもご存じのとおり、9月6日に武蔵五日市・吹川パーキングランド付近で、日鉄労友会が主催する「イモ焼き」が実施されました。この日に佐藤久雄、久松友和が参加していたことが発覚しました。多数のブラックユニオンと一緒に物気あつたいお祭り気分になってさぞかし楽しかった事でしょう。さあ、いったい彼らは何が目的だったのでしょうか?</p>		
<h3>これが久雄の実態!!!</h3>		
<ul style="list-style-type: none"> ・最初はしるを切って脱獄して、ワゴンとボロボロのボロボロ! ・二階からどういふ人間か知らずして旅行や飲みと一緒に連れて行っていた! ・ブラックユニオンがどういふ組織か知らずして行った! ・深夜改革以降、1、2、4年経って現任JR東労組、本番ブラック! ・彼の仲間が日鉄労友会(若)会の連中! ・新潟からわざわざ朝 6、30の新幹線に乗って参加した! ・当日は休日出勤を頼んでまで年休をとり参加した! ・今回「イモ焼き」でも「イモ焼き」をやらせたいと企てていたと告発! ・話し合いでは決まらなかったことだけ反省の色も見せず! ※またまたいっばいあるけど... <p>同僚を買収しようかとも組合員に誘っている!!!</p>		
<p>二階といえば、7月のユースラリーの首謀者として喧嘩した人物。ブラックユニオン=JR組合はズバリ闘争組合である。会社にベッタリのみならず、権力者には絶対的に向かない。われわれが全力で闘って新ガイドライン反対! 労働法反対! に対して憲法違反を以て罵詈雑言を浴び、敵対し、「お国のため」「金持ちのため」「権力者のために」賛成したのだ。その罪状に目を丸く高々と掲げたい。こんなのは右翼集団であって労働組合ではない! 久松は受けた罪状にひそみ、われわれを裏切り続けている。どんなに罰らうが、土下座をしようがそれらは「罪」ではない。われわれは組織破壊者と断罪した。組織を裏切った罪は重いのだ! 同僚する余地はこれっぽっちもない! だから、われわれは闘争体制をとった。(山口 邦広・渡辺 誠也)</p>		
<p>～闘争体制とら～</p> <p>同僚の連中も行くが闘争委員会が全てにおいて態度を表明される。闘争委員会を攻撃するということは、ストライキをやる時に石を投ずるほど重要で、東労組は闘争から現在に至るまで闘争一歩も体制をとってない。</p>		

「炸裂No.44」(JR東労組三鷹電車区分会青年部情報) 佐藤氏を組織破壊者と断定し口汚く攻撃する分会青年部情報。20代の若者が先輩を罵る様は、職場荒廃の実態を如実に表している。

は、絶対に許されないことです。そのような運転士が、現在も中央線の運転業務に携わっているのです。会社が今からでも事実関係を調査し、厳正に対処すべきことは言うまでもありません。

3. JR東日本は佐藤氏を転勤・出向させて事態を収める

JR東労組による佐藤氏への集団的糾弾行動は、1999年12月になってさらに激化しました。この間、三鷹電車区の管理者は、佐藤氏の出勤の度に、目前で点呼妨害などの安全破壊行為が行われているにもかかわらずJR東労組を制止することすらできず、彼らの横暴を事実上黙認していました。

JR東日本は、12月中旬より佐藤氏を運転業務から外し、2000年1月からは三鷹電車区の構内の掃除や草むしりなどに従事させました。その間もなお、JR東労組の役員らが勤務時間中や昼休みに押し掛けて、佐藤氏を繰り返し恫喝しました。

その後、3月1日、会社は佐藤氏に三鷹駅での勤務（助勤）を命じました。前日の2月29日には、佐藤氏の退勤時に50人ものJR東労組組合員が更衣室から溢れるばかりに押し掛け、佐藤氏に「さっさと辞めろ！」「帰れ！」などと大声で恫喝し、身動きもできないような状態で罵詈雑言を浴びせられたのです。三鷹駅の仕事は、

いじめを受け続け、組合を脱退させられた佐藤氏



事務雑用のほか、車椅子旅客の対応、痴漢や酔客の対応、掃除などでした。JR東労組の組合員は佐藤氏に出会う度に「さっさと会社

No.16 1999 10.16 **ブラック連合解体 闘争委員会ニュース** JR東労組 八王子地本

許すな組織破壊!

三鷹電車区分会

佐藤久雄が東労組を脱退!

9.5「ブラックのいる車会」に参加した三鷹電車区・佐藤久雄が11月15日に東労組を脱退した。「ブラックのいる車会」に参加し、ブラックと闘争の心づいた行動を遂げ、ブラックを倒した佐藤氏を脱退させた。彼等は佐藤氏の脱退を更に仕掛ける組織破壊に対して堪えない体制を確立しつづける闘いにつけて出る。

全ての分会から団結署名をかちとろう!

JR東労組東京地本

「ブラック」とはJR東労組内での「グリーンユニオン」の蔑称。とても普通の労働組合の情報ではない。このような情報類は、今なお、数多く発行されている。彼らの体質が非常によくわかる。

辞めろ！」「ハンドル置いて今度はモップ持っているのか」「電車も転がせないで車椅子転がしてるのか」など、口汚く人間の尊厳を否定するような悪口を吐きつけていました。

そして2000年9月1日、JR東日本は佐藤氏を警備会社に出向させて事態を収めました。佐藤氏は、運転士復帰を信じて警備業務をまじめに遂行しましたが、3年間の出向期間が満了した2003年9月1日、会社は佐藤氏を再び三鷹駅に発令し、運転業務に就くことはできませんでした。佐藤氏は落胆してしまいました。とにかく悔しくて仕方ありませんでした。

4. 提訴によりJR東日本はようやく佐藤氏を運転士に発令

三鷹電車区事件の構図は、浦和電車区事件とまったく同じです。浦和電車区事件の加害者が逮捕、起訴され、刑事事件が進む中で、佐藤

2008年7月1日

東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長 千葉 勝也 殿

ジェイアール東日本労働組合
中央執行委員長 今井 伸

「三鷹電車区事件」に関する申し入れ

本日（7月1日）、いわゆる「三鷹電車区事件」の被害者でジェイアール東日本労働組合（略称JR東日本ユニオン）組合員の佐藤久雄氏が、豊田運輸区の運転士に復帰した。

佐藤氏が三鷹電車区の運転士として勤務していた時代の1999年秋から翌年初にかけて発生した「三鷹電車区事件」の経緯について、貴労組は詳細に把握されているはずである。

佐藤氏は、JR連合とJR東日本ユニオンの全面的な支援の下、昨年6月、JR東日本に対して運転士復帰を求める民事訴訟を提起し、「組合暴力による被害者救済運動」を積極的に展開してきた結果、ついに運転士復帰が実現した。

JR東日本ユニオンは、佐藤氏に対して執拗に放行された、人間の尊厳を踏みにじる卑怯な集団的糾弾行為は、到底許されるものではないと考えている。事件当時、佐藤氏を激しく誹謗中傷する貴労組の各版機関の情報が数多く出されていたことからみても、糾弾行為の背景には、貴労組による組織的な方針があったものと考えざるを得ない。また、佐藤氏を糾弾した実行者とその具体的な行為について、当方は詳細に把握しており、その実行者の責任を不同にすることはできない。

こうした認識を踏まえて、貴労組に対し、下記の点について申し入れるので、組織としての見解を明らかにしていただきたい。2008年7月18日（金）までに、JR東日本ユニオンに対して、誠意を持って回答いただくことを求める。

なお、この申し入れと、貴労組の対応については、公開することを申し添える。

記

1. 「三鷹電車区事件」に対する貴労組の見解を明らかにされたい。
2. 佐藤久雄氏に対して行った集団的糾弾行為について、貴労組は、組織として反省し、佐藤氏に謝罪されたい。
3. 佐藤久雄氏に対して行った集団的糾弾行為について、貴労組は、佐藤氏に謝罪するよう、責任を持って、行為の実行者である貴労組組合員を指導されたい。

以上

JR東日本ユニオン（JR連合）は、JR東労組に対し、佐藤氏に対して行った集団的糾弾行為について謝罪するよう申し入れたが、JR東労組は回答しなかった。

風土を乱した運転士を復帰させる会社はおかしい」「会社がS氏を復帰させたことに対してたたく」などの情報を作成、掲出するなど、今なお、佐藤氏を攻撃しています。2008年9月29日発行・JR東労組八王子地本機関紙のコラム「ポイント」では、「さらに6月には、グリーンユニオンの潜在組合員としてJR東労組を破壊しようとする社宅のポストを破壊し、会社が問題ありとして判断し、出向に出した者を運転士に戻したのだ」と書かれています。

JR連合は、安心して働けるJR東日本の職場を築き、安全を確立するために、悪質な行為の責任を決して不問にしてはならないと考えます。佐藤氏を糾弾したり、安全運転を妨害した悪質な個人は特定されていることから、JR東労組が姿勢を改めない限り、JR東日本の安全を確立するためにも、厳しく対応していく方針です。

氏はJR連合の全面支援の下、運転士復帰を求めてJR東日本を提訴することを決意し、2007年6月19日、東京地裁に提訴しました。その後、会社は審理の最中に2008年7月1日付で、佐藤氏を、三鷹電車区と同じ中央線を担当する豊田運輸区の運転士に発令しました。佐藤氏は、1999年12月に運転士を外されてから、実に8年7ヶ月ぶりによくやく運転士に復帰することができました。現在はプランクを取り戻そうと訓練を続けており、運転士として独り立ちできる日も遠くないはずです。

5. 反省の姿勢なく 今なお佐藤氏を攻撃するJR東労組

JR連合の構成組織で、佐藤氏が所属するJR東日本ユニオンは、佐藤氏の運転士復帰を受けて、JR東労組に対し、謝罪を求める申し入れを行いました。回答は寄せられていません。それどころか、懸命に奮闘している佐藤氏に対し、JR東労組は「会社の判断はご都合主義！職場の安全風土を乱したS 豊田運輸区に発令！」「職場の安全